様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月　 ８ 日現在

機関番号：１６４０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ１７３２１

研究課題名（和文）アイデンティティ構造モデルを用いた既婚女性の就労意識及び幸福感に関する基礎的研究

研究課題名（英文）Working attitudes and subjective happiness of Japanese married women: Studies using the identity structure model

研究代表者
渡邊　ひとみ（Watanabe, Hitomi）

高知大学・教育研究部人文社会科学系人文社会科学部門・講師

研究者番号：９０６１４８５０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では，既婚有子女性のライフコース選択（就業継続，育児後に再就業，専業主婦）とアイデンティティとの関連を実証的に検討した。その結果，就業継続及び再就業タイプは複数の文脈アイデンティティから個全体としてのアイデンティティが形成されていたが，専業主婦の場合には限定された少数の文脈アイデンティティから個全体としてのアイデンティティが構成されており，構造上の脆弱性がみられた。また，出産退職前から，教育や支援を通してキャリアに対する積極的な態度を形成することが成人女性の主観的幸福感を高めることにつながっていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本邦では，女性の労働に関わる問題が山積しているにも関わらず，成人期女性を対象にした心理学的研究が少ない。また，女性の積極的な社会進出が謳われているものの，出産を機に退職する女性が未だ多く，職場環境以外の他の文脈も含めた上で，女性の日常生活を全般的に捉えた実証的研究が求められている。様々な文脈で形成しているアイデンティティの特徴とライフコース選択との関連を検討した本研究知見は，女性の働きやすい環境を強化するための心理的支援や生活の質の向上を目指したアプローチに役立つと考えられる。

研究成果の概要（英文）：The present study examined the relationships between different working styles and identity structure of Japanese married women with children. Working continuously while or after raising children was associated with the overall identity composed by multiple context-specific identities. However, for homemakers, context-specific identities in limited domains of their “home” and “own parents’ home” affected the overall identity, which indicates that their self-definition is vulnerable to losing the above-mentioned context-specific identities. In addition to improving working environment for women with unstable employment status and low income, support for self- and career-development before childbirth may be important to make working women happier.

研究分野：発達心理学

キーワード：既婚女性　アイデンティティ　ライフコース　就労意識　主観的幸福感

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９，Ｆ－１９－１，Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本邦における就労女性人口は増加傾向にあるが，子育て世代で生活にゆとりがあると回答する者はわずか 0.3%であり，66%は生活が苦しいとの評価をしている（厚生労働省，2014）。また，子育ての困難さだけでなく，就労女性の増加は晩婚化や少子化問題（内閣府，2002），さらには託児所不足などによる“働きたくても働けない女性”の増加（総務省，2010）といった社会問題と結びついており，女性が子育てをしながら働くことができる環境の整備や支援が急務といわれている。しかし同時に，ライフコース選択は女性自身の生き甲斐や自分らしさ，つまりアイデンティティ（国眼，1994）が反映されたものであることも多い（Wayne，Randel，& Stevens，2006）。したがって，女性の心理的側面を考慮に入れないまま，環境的側面を一方的に整備するだけでは，その支援は不十分なものにならざるを得ないともいわれている。

成人女性のライフコース選択とアイデンティティとの関連についてはこれまでも検討されてきた。従来の研究では，アイデンティティの状態を 4 つのアイデンティティ地位に分類する方法やアイデンティティ確立の程度を数値化する方法が主として用いられてきた。しかし，両研究法からはアイデンティティ確立の程度を捉えることはできても，そのデータからどのようにその人らしさがかたち作られているのかという点について推測することは容易ではなく，個々人の日常生活に即したかたちでの自分らしさを捉えることも難しい。さらに，アイデンティティの地位理論では，“傾倒の程度”と“危機（探索）の有無”の 2 変数からアイデンティティの状態を捉えるため，中間的なタイプの場合にはどの地位にも当てはまらないという大きな問題点も近年指摘されている（Berzonsky & Adams，1999; van Hoof，1999; 谷，2001; Waterman，1999）。

２．研究の目的

本研究の目的は，3 つの異なるライフコース（就業継続，育児後に再就業，専業主婦）を選択した既婚有子女性を対象とし，ライフコース選択とアイデンティティとの関連を実証的に検討することである。そして，いかなる心理的側面を配慮した支援が女性の就労意欲や人生における幸福感を高めることにつながるのかを解明することである。前述の社会的背景と従来の研究法の問題点を踏まえ，本研究では子育て期にある女性それぞれが関与している生活文脈を考慮に入れた上でアイデンティティ特徴と構造を捉え，ライフコースとの関連を検討する。

本研究では，アイデンティティの構造モデル（van Hoof & Raaijmakers，2002）を用い，家庭や職場，ボランティア活動などの私たちが日常生活の中で参加可能な生活及び活動の場（文脈：context）に着目する。本モデルでは，既婚女性が各文脈において形成しているアイデンティティの具体的特徴を 4 つの側面から捉え，その人らしさを多面的に測定し，把握する。

３．研究の方法

まず，既婚有子女性を対象とした質問紙調査を実施した。使用した尺度及び項目は以下の通りであった。(1) 文脈：「家庭」「職場」「習い事」「自分の実家」「夫の実家」「ボランティア活動」「宗教活動」の 7 文脈（渡邊・内山，2011）を呈示し，日常的に参加している文脈をすべて選択してもらった。また，「その他」の項目を設け，上述の 7 文脈以外に参加文脈がある場合には自由記述により回答するよう求めた。(2) アイデンティティ尺度（van Hoof，1997）：個人の能力を示す側面である「competence（4 項目）」，能力の発揮を妨げる自己疑惑を表す「inhibition（6 項目）」，ポジティブな感情を示す「feeling（4 項目）」，社会的環境との関わりかたを示す「interpersonal behavior（6 項目）」の 4 つの下位尺度から構成されており，各々が参加している文脈及び日常生活全般について各項目に当てはまる程度を回答するよう求めた。(3) 職業キャリア発達尺度（岡田，2013）：「キャリア不透明性」「キャリア意欲」「キャリア主体性」を表す項目について，また (4) 主観的幸福感尺度（伊藤・相良・池田・川浦，2003）：「人生に対する前向きな気持ち」「達成感」「自信」「人生に対する失望感」を測定する項目について，自分自身に当てはまる程度を回答するよう求めた。(5) その他：年齢，教育年数，子どもの人数と年齢，個人・世帯年収，業種，企業規模，就労形態を尋ねた。

続いて実施したインタビュー調査では，既婚有子女性を対象に 60－90 分程度の半構造化面接を実施した。具体的には，現在のライフコースを選択した理由，参加している文脈とアイデンティティ（アイデンティティという表現は難しいため，「自分らしさ」という表現に置き換え，各文脈での自分らしさについて語ってもらった），現在の労働状況・環境，育児と就労とのバランスの取りかた，出産前後における就労意識・意欲および育児に対する考え方の変化，価値を置く労働条件，幸福感について語ってもらった。

４．研究成果

日常的に参加している文脈の中で自分らしさを表す文脈の内容と数を検討したところ(Figure 1)，平均文脈数はいずれのタイプの女性おいても 2.49－2.70 文脈であり，ライフコースによる差はみられなかった。また，「家庭」及び「自分の実家」を選択する女性が共通して多くみられた一方で，勤労女性が毎日参加する「職場」が“自分らしくいられる文脈”として選択される割合は想定よりも低かった。各アイデンティティ得点，職業キャリア発達の各下位尺度得点及び主観的幸福感得点については，ライフコースによる有意差はみられなかった。

続いて，アイデンティティ構造の特徴をライフコース別に検討した（Figure 2）。いずれのライフコースにおいても，アイデンティティの feeling 側面及び interpersonal behavior 側面の

みが個全体としてのアイデンティティに影響しており，また両側面の影響のしかたは類似していた。就業継続タイプ及び再就業タイプは「家庭」や「自分の実家」以外の他領域で形成しているアイデンティティも個全体としてのアイデンティティに影響していた。しかし，専業主婦タイプの個全体としてのアイデンティティは上述の 2 文脈で形成しているアイデンティティのみから影響を受けていた。アイデンティティ構造といった視点から捉えると，専業主婦タイプは家庭や実家という文脈を失う，もしくはそれらの文脈の中でポジティブな情動的側面／良好な対人関係の構築に関わるような側面において自分らしさを経験できなくなる場合に個全体が脅かされる可能性が高く，脆弱性の高い自己構造を有していた。したがって，専業主婦タイプについては，家庭に関するサポートとともに，アイデンティティを構築できるほど日常的に深く関与できる文脈を広げるための支援をすることで精神的健康の維持や促進が可能となるだろう。一方の就業継続及び再就業タイプについては，複数の文脈アイデンティティから個全体としてのアイデンティティが構築されているため，いずれかの文脈アイデンティティの変化・喪失が個全体に及ぼす影響は小さいが，複数のアイデンティティを維持できるよう支援することが重要である。

就業継続	再就業	専業主婦
家庭（84.40%）	家庭（80.00%）	家庭（82.48%）
自分の実家（62.39%）	自分の実家（54.00%）	自分の実家（70.07%）
職場（42.20%）	職場（36.00%）	夫の実家（25.55%）
余暇活動（23.39%）	夫の実家（22.00%）	余暇活動（24.82%）
夫の実家（21.56%）	習い事（20.00%）	その他（16.06%）
習い事（15.14%）	その他（18.00%）	習い事（8.76%）
その他（9.17%）	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動（10.00%）	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動（6.57%）
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動（7.34%）	余暇活動（8.00%）	宗教活動（4.38%）
宗教活動（4.59%）		

Figure 1. 自分らしさを表す文脈として各文脈を選択した女性の割合（%）

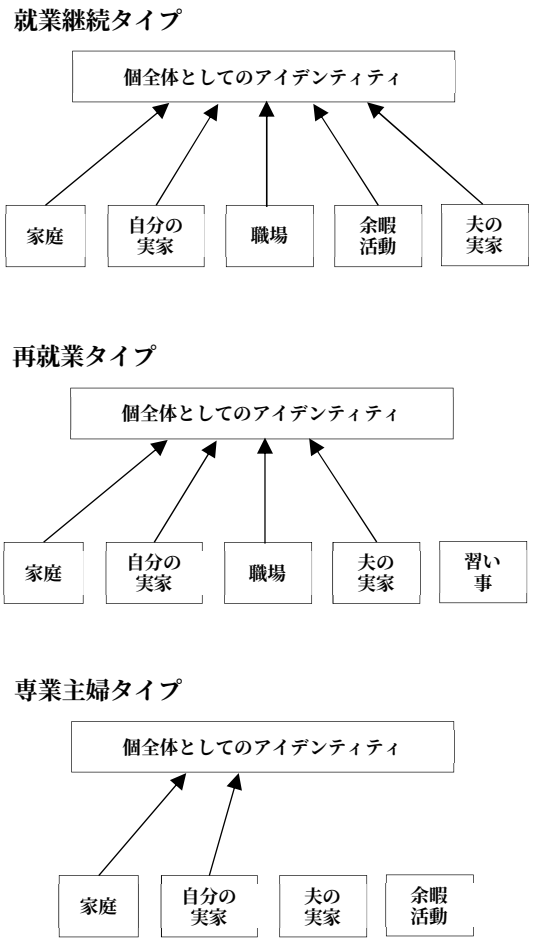

Figure 2. ライフコース別にみたアイデンティティ構造（feeling 側面及び interpersonal behavior 側面に共通）

主観的幸福感を高める要因について検討した結果，就業継続タイプはアイデンティティの competence 側面及びキャリア主体性が高いほど，またキャリア不透明性が低いほど幸福感が高くなることが示された。再就業タイプはキャリア主体性が高いほど，そして世帯収入が高いほど幸福感が高まった。しかし，専業主婦タイプについては，いずれの変数も主観的幸福感に影響していなかった。

さらに，就業形態による差もみられ，就業継続タイプであれ再就業タイプであれ，正規雇用者はキャリア主体性やアイデンティティ特徴（feeling 側面）といった心理学的要因のみが主観的幸福感を規定していたのに対し，非正規雇用の場合には世帯収入などの経済的要因も主観的幸福感を高めていることが示された。補足的に出産前後での比較も行ったところ，出産退職前に職業と自己実現を関連づけていた女性は出産後も正規社員としての勤務を選択する確率が高かったことから，労働環境の整備だけでなく，積極的に仕事に関与する目的をもたせること，またその目標を達成していくことができるという自信を高めることも重要であるといえる。

インタビュー調査では，自分らしさの確立やキャリアへの意識以上に，「周囲に期待される役割」に影響を受ける女性の姿が明らかとなった。再就業及び専業主婦タイプにおいてはその特徴が顕著であり，出産に伴うライフコース選択時にも“そうするものだと思っていた”“なんとなく”といった語りが多くみられた。また，専業主婦タイプは“母親／女性は△しなければならない”といった語りが多く，“△しなければならないと思っていたため，△できていない他の母親をみると『母親として失格である』といった悪い心証を抱く。また，自分も他者からそのように思われないように行動してきた”といったように，誰に明示的に教わったわけでもない伝統的な性役割観がライフコース選択に結びついていることが示された。就業継続タイプについては性役割観に関わるような語りはみられず，自分らしさや夢の実現について言及することが多かった。育児についてはどのライフコースを選択した女性においても類似した語り（良いことも大変

なこともある）がみられた。しかし，専業主婦タイプは家庭にしか居場所がなく（社会との接点が少なく），また身近な就業継続タイプの母親との比較の中で自身の仕事や将来についての不安や悩みを抱えており，よって地域に根差した気軽に短時間で働ける環境の整備を望む声が多かった。本インタビュー結果は，質問紙調査によって明らかとなったアイデンティティ構造の特徴とも一致しているといえるだろう。

以上のことから，主観的幸福感の高さに差はみられなかったものの，アイデンティティ構造や主観的幸福感を高める要因にはライフコースによる差異がみられた。個全体としてのアイデンティティが少数の文脈アイデンティティから構成されている専業主婦タイプには，家庭での自己確立を促進する支援と共に，アイデンティティを形成するほど深く関わることができる文脈を増やすための支援が必要であろう。さらに，労働環境の整備だけでなく，出産退職する前の段階から職業と自己実現を関連づけることで積極的に仕事に関与する目的をもたせること，またその目標を達成していくことができるという自信を高めることが就業継続タイプ及び再就業タイプの主観的幸福感を高めることにつながり，同時に出産後の正規社員としての再就業を促進する上で重要となるであろう。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 Hitomi Watanabe
２．発表標題 Subjective happiness and irregular employment: Comparisons with women in regular employment and homemakers
３．学会等名 29th International Congress of Applied Psychology（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 渡邊ひとみ（企画・話題提供）・伴碧（企画・話題提供）・野崎華世（話題提供）・江上園子（話題提供）・蒲谷槙介（話題提供）
２．発表標題 成人女性の実情をデータから読みとる　―キャリア、子育て研究から捉える女性たちの今―
３．学会等名 日本発達心理学会第30回大会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考